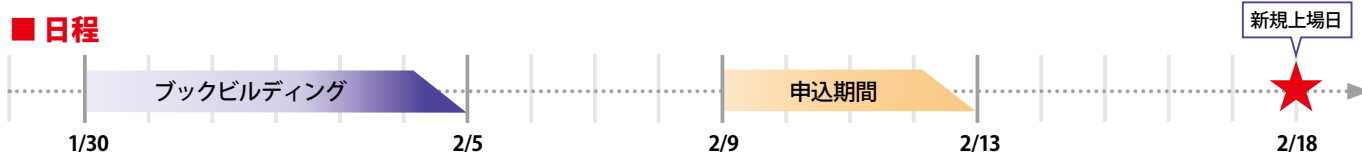


## IPO銘柄 ファーストブラザーズ (3454・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3454	100 株	公募: 130.00 万株 売出: 120.00 万株 (OA37.50 万株)	1,920 円 ~ 2,040 円 (12.7 倍)	野村証券



## 不動産を中心とした投資運用事業などを展開

### ■ 事業内容

不動産を中心とした投資運用事業と投資銀行事業を手掛ける。投資運用事業では主な顧客である機関投資家の資産運用を行い、私募ファンドの形式で顧客の資産運用を行う。投資戦略の企画、立案から投資案件の取得、投資期間中の運用、プロパティマネジメントなどを手掛けており、投資案件の取得に伴うアキュイジションフィー、運用期間中に定期的に受け取るアセットマネジメントフィー、決済終了後に受け取るディスポジションフィーやインセンティブフィーが収益源。投資銀行事業は自己資金の運用と各種アドバイザリー業務で、顧客との共同投資と自己勘定投資がある。14年11月期第3四半期累計(13年12月~14年8月)の売上高構成比は、投資運用事業が8.6%、投資銀行事業が91.4%となっている。

### ■ 特徴

黎明期から不動産の証券化手法を活用した資産運用を行っており、不動産市場の動向を重視した投資戦略を採っている。アベノミクスを背景に不動産市場が大いに盛り上がった13年11月期は積極的な案件売却を行っており、投資運用事業の構成比が32.8%に達している。

## アナリストコメント

### ■ 定量分析

15年11月期の連結経常利益は前期比14.6%減の18億3,800万円を予想する。前期に大規模な物件売却を行い業績が急拡大しており、今期はその反動が出る。ただ、減益見込みではあるが、今期予想ベースでは経常利益率が50%に達しており、利益率の高さは魅力的に映る。

### ■ 定性分析

良好な事業環境に乗って前期業績が急拡大した不動産株で、アベノミクスの恩恵を大きく受けての上場となる。業績面は爆発力を持つ一方で安定感は乏しい印象。ブックビルディングのスケジュールが需給妙味のある他案件と重なることで、人気を奪われる可能性もある。

### ■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約59億円。仮条件は目論見書記載の想定発行価格2,490円を大きく下回る水準に設定され、吸収金額も当初より減少した。ただ、不人気イメージが付いてしまったことで、吸収金額が減少しても需給面への不安は拭えていない。

(小泉健太)

### ■ 類似企業

ファーストブラザーズ(3454・マザーズ)	予想PER12.7倍 (仮条件上限)
いちごグループホールディングス(2337・JASDAQ)	予想PER20.4倍
フィンテック グローバル(8789・マザーズ)	予想PER27.4倍

### ■ 引受証券

野村証券、マネックス証券

## 業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
13年11月期(実績)	3,297	20.1	-49	赤拵	-254	赤拵	-44.9	—
14年11月期(実績)	10,723	225.2	2,153	黒転	657	黒転	117.0	—
15年11月期(会社予想)	3,607	▲66.4	1,838	▲14.6	1,066	62.1	160.5	—

※ 14年10月に株式分割(1株→100株)を実施。13年11月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
12年11月期	58,480	10,411	4,168	300	497.3	27.3	—
13年11月期	58,480	9,122	3,914	300	457.4	28.2	—

※ 12年11月期および13年11月期のBPSは遡及修正

## 大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	吉原 知紀	4,583,000	75.36
2	堀田 佳延	525,000	8.63
3	エーシーアイ	393,000	6.46
4	ファーストブラザーズ	225,000	3.70
5	辻野 和孝	94,000	1.55
6	佐藤 昌彦	50,000	0.82
7	谷口 大輔	35,000	0.58
8	田村 幸太郎	20,000	0.33
8	片山 実	20,000	0.33
8	川島 淳一	20,000	0.33

## 経営陣

	役職	氏名
	代表取締役社長	吉原 知紀
	取締役 総務部長	辻野 和孝
	取締役 社長室長	佐藤 昌彦
	取締役 経営企画室長	堀田 佳延
	取締役	田村 幸太郎
	取締役	渡辺 達郎
	常勤監査役	土田 猛
	監査役	齋藤 剛
	監査役	臼井 丈

# モーニングスターIPOレポートの読み方

## 特 徴

モーニングスター IPO<sup>(※1)</sup> レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング<sup>(※2)</sup> が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

## 項目説明

### ■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

### ■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

### ■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

### ■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

### ■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

### ■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。